

津波ハザードマップを配布



▲予想される浸水の深さで地図を色分けしています

市は、津波による浸水を予測して被害範囲を地図化したハザードマップを作成し、先月10日、新聞折り込みで配布しました。

津波による被害を最小限にとどめるため、浸水への警戒や避難に関わる情報を提供するために作成。南海トラフ沿いで起きるとされる巨大地震で発生する津波を想定し、地図上に地域ごとの浸水の深さや公共施設の標高、避難所の場所などを表示しました。また、裏面には普段から津波に備えてもらうため、津波の特徴や適切な避難方法なども記載しています。

新聞未購読者で広報みはらを送付している人には1月号に同封しました。

日頃から津波被害に備えるために役立ててください。

災害時のLPガス供給で協定を締結



▲避難所などへのLPガスの供給で協定を結びました

市は11月26日、災害時の避難所でガスを早期に供給するため、県LPガス協会三原地区協議会(松山充利会長)と協定を結びました。

ボンベなどの容器から直接ガスを供給するLPガスは、配管など設備の設置が短時間で済むため、災害に強いエネルギー源とされています。東日本大震災でも避難所へ迅速に設置され、煮炊きや給湯など被災者の生活支援に大きく貢献しました。

市はこの協定のもと、ガス事業者で組織する同協議会と協力し、災害時に避難所へLPガス設備をスムーズに配備できるよう準備を進めます。

危機管理室

☎0848・67・6066

市内工業団地への企業立地が相次ぐ

市内の工業団地へ企業の進出が相次いでいます。

西部工業団地・惣定地区(沼田西町)では、紙加工製品を製造する中国紙工業が工場を建設し、今月中旬にも操業を開始する予定です。昨年8月には食品向けなどの香料製造で国内最大手の高砂香料工業の生産子会社である高砂香料西日本工場、11月には惣菜サラダ向けのカット野菜を製造販売するサラダクラブの立地が決まりました。高砂香料は平成27年前半、サラダクラブは今年10月下旬に工場を稼働し、生産を開始する計画です。



▲今月中旬にも操業を開始する中国紙工業の新工場(西部工業団地)

広島臨空産業団地(本郷町善入寺)では昨年3月、パン・菓子製造販売の八天堂が新工場を建設し、操業を開始。首都圏などで販売を拡大している同社は、空港に近い利便性を生かし、空路を使ったスムーズな物流体制を整えました。

大和フライト産業団地(大和町平坂)では、シャープと芙蓉総合リースの共同出資会社であるクリスタル・クリア・ソーラーが大規模太陽光発電所(メガソーラー)を建設し、昨年8月末に商業運転を開始。年間の予測発電量は約210万キロワット時間で、一般的な家庭の年間消費電力量の約580世帯分に相当します。

市は今後も、温暖な気候や交通利便性の高さなどをアピールし、工業団地への企業立地を積極的に進め、産業振興や雇用の場の確保を図ります。



▲大和フライト産業団地で商業運転を開始したメガソーラー

商工振興課

☎0848・67・6013